

指導資料

国語 第157号

鹿児島県総合教育センター
令和4年4月発行

対象
校種

中学校 義務教育学校
特別支援学校



語彙指導の改善・充実を図る中学校国語科の学習指導

語彙指導については、多くの国語教師がその指導の難しさを感じている。それは、生徒の語彙を豊かにすることが一朝一夕にはいかないからである。そこで、本稿では学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた、語彙に関する指導のアイデア例を紹介する。

1 はじめに

中央教育審議会答申（平成28年12月21日）において、小学校低学年における学力差の背景に、語彙の量と質の違いがあり、その後の学力差にも大きく影響することが指摘された。

このことを受け、国語科においては語彙を豊かにする指導の改善・充実を図ることが求められている。これまでも語句・語彙に関する事項については、指導事項に基づいて指導を行ってきたところであるが、意味を理解している語句の数を増やす量的な側面における指導の比重が大きかったように感じられる。今回の学習指導要領改訂で求められているのは、生徒一人一人の語彙を量と質の両面から充実させることである。つまり、意味を理解している語句を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語感を磨き、語彙の質も高めていく必要があるということである。

2 学習指導要領における指導事項の系統化

上述したことを踏まえ、語彙に関する指導事項も各学年において、指導の重点となる語句のまとまりを示すとともに、語句への理解

を深めるために以下のように系統化して示された。

(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
第一学年	ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
第二学年	エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
第三学年	イ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けられることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

(中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編 pp.168-169から引用 ※下線は筆者による。)

各学年とも前半が語句の量を増すこと（量的な側面に関する指導）、後半が語句についての理解を深めること（質的な側面に関する指導）といった文型で示されていることが分かる。

3 語彙指導の基本的な考え方

2に示したとおり語彙指導については系統的に語句のまとまりが規定され、重点的に指

導することが求められているが、実際の指導に際しては、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とする。それは、語彙に関する「知識及び技能」は、個別の事実的な知識のこのみを指しているのではなく、国語で理解したり表現したりする様々な場面の中で生きて働く「知識及び技能」として身に付けられるようにしなければならないからである。思考・判

断し表現することを通して育成を図ることが肝要であり、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕を相互に関連させて単元を構想することが大切である。また、語彙に関する指導事項を踏まえ、継続的な指導を意識した授業づくりも大切である。

そこで、以下に〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕を関連させて授業を構想する例を示す。

語彙指導アイデア例 1

～語彙指導を軸に継続的な指導を意識した授業づくり～（第1学年）

〔知識及び技能〕 の指導事項	〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項		
	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
語彙	表現、共有	推敲	構造と内容の把握

- ※ 例えば、「A 話すこと・聞くこと」領域の表現、共有の学習で、「聞いて分かりにくい語句」に注意し、「聞いて分かりやすい語句」に置き換える学習を展開する。
- ※ 例えば、「B 書くこと」領域の推敲の学習で、事象や行為を表す語句に注目し、より適切な語句を選択する学習を展開する。
- ※ 例えば、「C 読むこと」領域の構造と内容の把握の学習で、心情を表す語句に着目して、登場人物の心情の変化を捉える学習を展開する。

単元を構想する際に、「C 読むこと」の領域における言語活動を「作品を熟語で紹介する」と設定した実践事例がある。語彙指導を

軸にした実践であり、全学年の「C 読むこと」の学習において、転化できる言語活動となっている。以下に、その概要を示す。

語彙指導アイデア例 2

～「C 読むこと」領域の言語活動に語彙指導を位置付けた授業づくり～（第2学年）

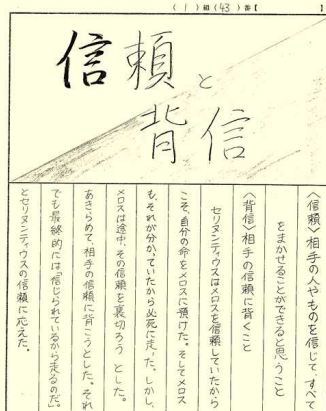
単元の概要

- 1 単元名
小説を熟語で語り合おう ～「走れメロス」を二つの熟語で紹介する～
- 2 単元の目標
 - (1) 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)エ
 - (2) 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ
 - (3) 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ
 - (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
- 3 単元の流れ（全5時間）

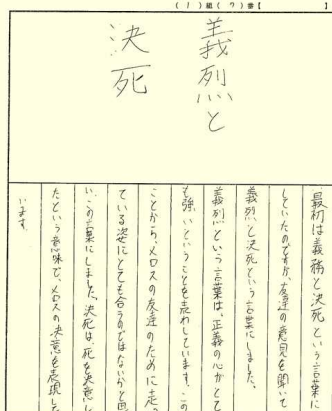
時間	主な学習活動
1	1 既習教材「少年の日の思い出」を熟語で紹介する。 2 単元の学習課題を捉える。 「走れメロス」を二つの熟語で紹介しよう。
2・3	3 「走れメロス」を読んで、登場人物の言動の意味などを考え、内容を解釈し、考えた熟語をノートに書き出す。
4	4 熟語を二つに絞り、根拠や理由を明確にして文章にまとめる。
5	5 友達と考えを共有し、多様な解釈に触れ、考えを広げたり深めたりする。

4 生徒の作品例

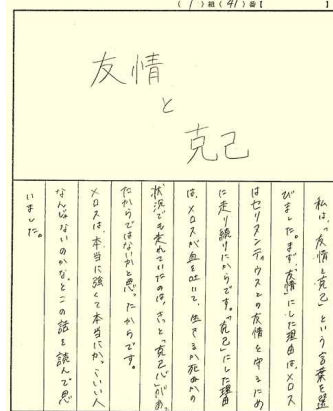
「走れメロス」を熟語で語ろう



「走れメロス」を熟語で語ろう



「走れメロス」を熟語で語ろう



5 語彙指導の効果を高める工夫

- 「読むこと」において、抽象的な概念の語句を増すために、自分の考えを熟語で紹介させる。
- 作品を紹介するにふさわしい熟語を探すために、国語辞典や感情語辞典、類義語辞典などを活用させる。
- 語感を磨き語彙を豊かにするために、複数の熟語から選択したり、紹介するにふさわしい熟語を更に吟味したりする場を設定する。

(鹿児島市立吉田南中学校 松元智宏教諭の実践)

4 取り立て指導による語彙指導

3で述べたように、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕を相互に関連させて指導をすることが語彙指導の基本とな

るが、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりして、指導の効果を高める工夫をすることも可能である。いわゆる取り立て指導の例について以下に示す。

語彙指導アイデア例3

～実生活に関連した言語活動を取り入れた授業づくり～ (第1学年)

例えば、平成26年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた「授業アイデア例」に掲載してある「言葉を集め、言葉カレンダーを作ろう」が参考になる。語句を文脈の中で適切に使うためには、多様な言葉に触れて理解を深めることが大切である。様々な方法で情報を収集し、言葉を選択する過程で、語感を磨き語彙を豊かにすることが期待できる。

【言葉カレンダーの例】

日	月	火	水	木	金	土
	1 長月 陰暦9月の別称。	2 はぎ、なでしこ、 すすき、ききょう (秋の植物)	3 さんま、とんぼ、 さつまいも (秋の手語)	4 しゃっこい 「冷たい」の意味。 (方言)	5 体育大会 一致団結 多くの人が心を 一つに合わせて、 強く結ばれること。 (四字熟語)	6 初秋の候 (時候の挨拶)
7 君待つと 我が恋ひ居れば 我が屋戸の すだれ動かし 秋の風吹く <small>松尾芭蕉</small> 額田王 (和歌)	8 白露 秋の気配が強くな り、白く露の 結び始める頃。 (二十四節気)	9 秋は夕暮れ (「枕草子」の 一節)	10 	11	12 名月や 池をめぐりて 夜もすがら <small>松尾芭蕉</small> 松尾芭蕉 (俳句)	13 秋の日は つるべ落とし 秋の日は急速に 日が暮れる。 (ことわざ)

(平成26年度「授業アイデア例」P.8を一部掲載)

情報収集に当たっては、目的に応じて書籍、インターネット、他者へのインタビューなど多様な活動が展開できる。1人1台端末を活用し、情報を収集したりカレンダーそのものを協働的に作成したりすることも可能である。

5 年間を通して行う語彙指導

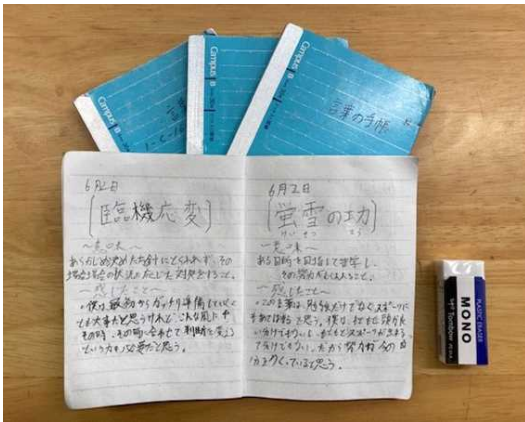
語彙の量と質の両側面を充実させることは容易でない。学習の場を授業のみならず、授業外に広げていくことも必要である。例えば、最近よく見られる実践が「語彙貯金」、「語彙手帳」などのように出合った語句を記録し、蓄積し、必要に応じて使用していく指導である。生徒の実態に応じて、様々な指導の工夫が考えられるが、以下に、年間を通した実践例を紹介する。

語彙指導アイデア例4

～「言葉の手帳」を活用した継続的な語彙指導～

初めて出合った語句や興味のある語句について辞書で意味を調べたり、その語句を話や文章の中で使ったりすることを継続的に行い、語彙を豊かにすることを目的としている。

語句の意味を記入している生徒が多いが、語句に対する自分の感想を書いている生徒もいる。授業中に「言葉の手帳」を携帯するなど、言葉に対する意識を高めることが期待できる。



(鹿児島市立鹿児島玉龍中学校 渡辺治教諭の実践)

このような実践においては、出合った語句を授業ノートやファイルに蓄積していくことが主流であるが、1人1台端末のよさを生かし、データとして語句を蓄積していくことも考えられる。語句を教科等ごとに整理していくことも可能であり、様々な工夫が考えられる。

ただし、大事なことは蓄積した語句を意図的に使用する場を設定することである。

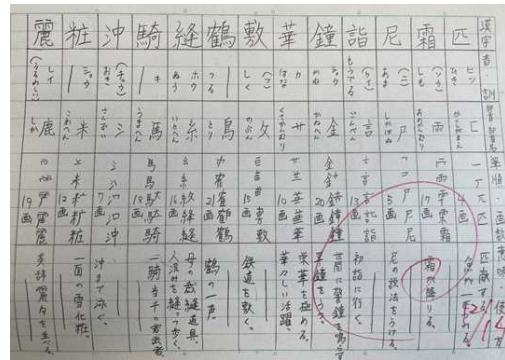
また、漢字指導も工夫次第で語彙指導になり得る。多くの国語教師が毎日あるいは週末

の課題として、漢字の書き取りを生徒に課しているが、熟語を調べさせたり、短文の中で使用させたりすることを通して語句を増すことができる。以下は漢字指導の一例である。

語彙指導アイデア例5

～漢字指導を工夫した語彙指導～

新出漢字の書き取りの学習は語句を増す絶好の機会となる。国語辞典、漢和辞典を利用して、漢字の意味を調べたり、話や文章の中で使ったりすることを継続的に行っている。ここでは、語句を適切に使えるように短文を書かせているが、類義語等を書かせるなどの工夫も考えられる。



(鹿児島大学教育学部附属中学校 吉川慎吾教諭の実践)

6 まとめ

ここまで述べてきたことを踏まえ、語彙指導において大切なことを以下にまとめ、本稿を閉じる。

- [思考力、判断力、表現力等]と相互に関連させて、生きて働く「知識及び技能」となるようにするとともに継続的な指導になるようにすること
- 学習した様々な語句を話や文章の中で使うことを通して、生徒にそれらを確実に定着させること
- 自分自身の語彙が増えていくことで得られるよさを生徒に実感させること

－引用・参考文献－

- 文部科学省 令和3年度各教科等教育課程研究協議会「中学校国語」配布資料 令和3年11月
- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』東洋館出版社 平成29年7月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター『平成26年度全国学力・学習状況調査を踏まえた「授業アイデア例」』平成26年9月

(教科教育研修課 松永 英一)